

# 利根川洪水氾濫時の各類型区分の死者数の想定結果

平成20年3月25日記者発表資料(抜粋、P8タイトル等一部修正)

# 目次

1. 市区町村別死者数（ケース1：渡良瀬貯留型氾濫）	2
2. 市区町村別死者数（ケース8：渡良瀬貯留型氾濫）	3
3. 市区町村別死者数（ケース1：古河・坂東沿川氾濫）	4
4. 市区町村別死者数（ケース8：古河・坂東沿川氾濫）	5
5. 市区町村別死者数（ケース1：首都圏広域氾濫）	6
6. 市区町村別死者数（ケース8：首都圏広域氾濫）	7
7. 200年に1度の発生確率の洪水により堤防が決壊した場合の死者数と その洪水量の約3割増の洪水量（1000年に1度の発生確率）により堤防が決壊した場合の 死者数の比較（首都圏広域氾濫）	8
8. 各類型区分別の死者数（ケース1）	9
9. 各類型区分別の死者数（ケース8）	10

# 1.市区町村別死者数(ケース1: 渡良瀬貯留型氾濫の場合)

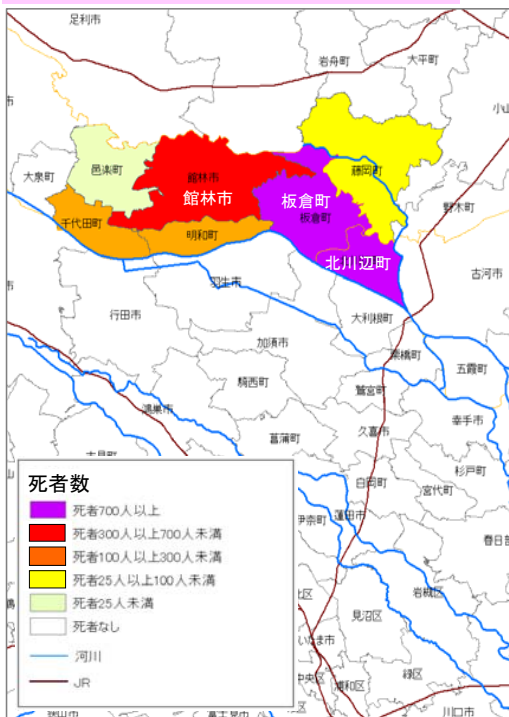
想定堤防決壊箇所: 千代田町

死者数

ケース1 ポンプ運無 : 燃料補給無 : 水門操作無 : 排水ポンプ車無 : 1/200年

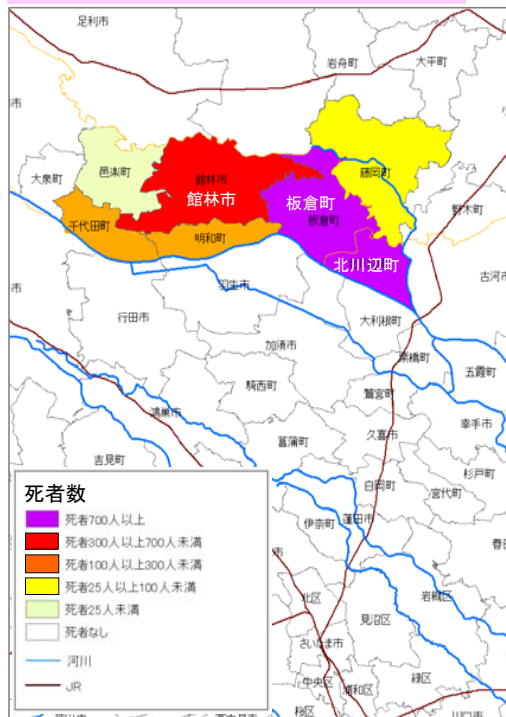
避難率0%の場合

死者数: 約6,200人



避難率40%の場合

死者数: 約3,700人



避難率80%の場合

死者数: 約1,200人



死者数 上位5市町村

北川辺町	約3,400人
板倉町	約1,600人
館林市	約500人
明和町	約300人
千代田町	約200人

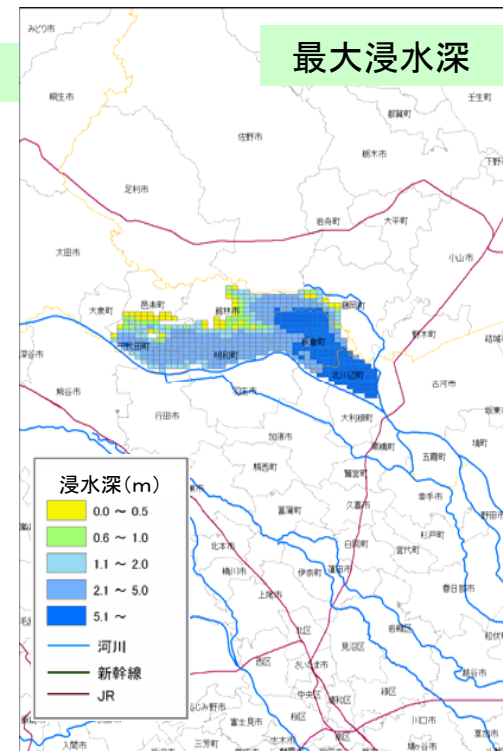
死者数 上位5市町村

北川辺町	約2,000人
板倉町	約1,000人
館林市	約300人
明和町	約200人
千代田町	約100人

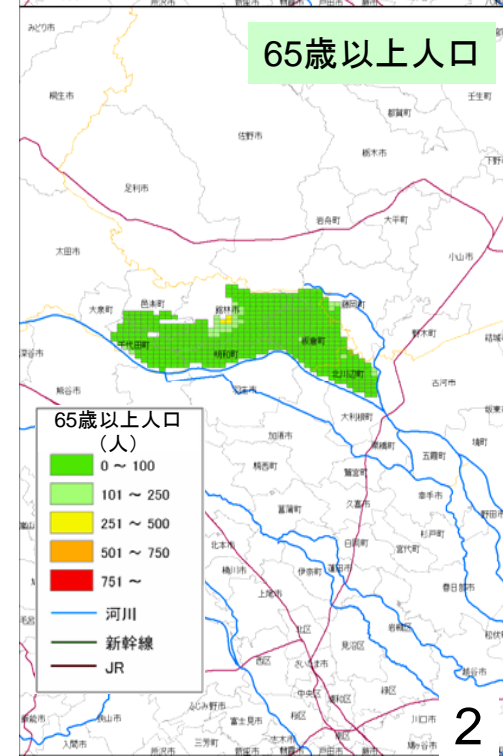
死者数 上位5市町村

北川辺町	約700人
板倉町	約300人
館林市	約100人
明和町	約60人
千代田町	約40人

最大浸水深



65歳以上人口



## 2.市区町村別死者数(ケース8: 渡良瀬貯留型氾濫の場合)

想定堤防決壊箇所: 千代田町

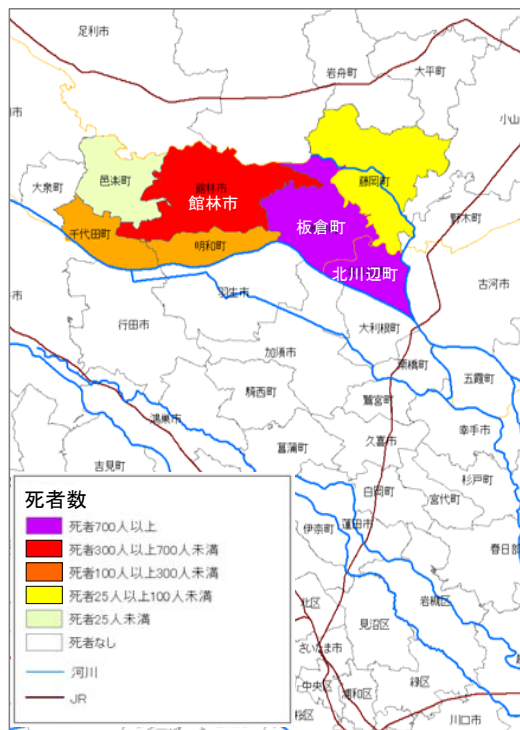
死者数

### ケース8

ポンプ運転 有 : 燃料補給 有 : 水門操作 有 : 排水ポンプ車 有 : 1/200年

避難率0%の場合

死者数: 約5,200人

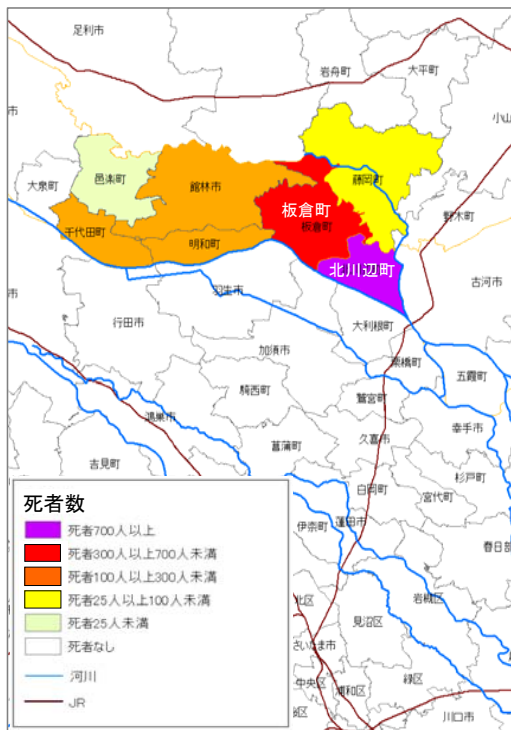


死者数 上位5市町村

北川辺町	約3,000人
板倉町	約1,100人
館林市	約500人
明和町	約300人
千代田町	約200人

避難率40%の場合

死者数: 約3,100人

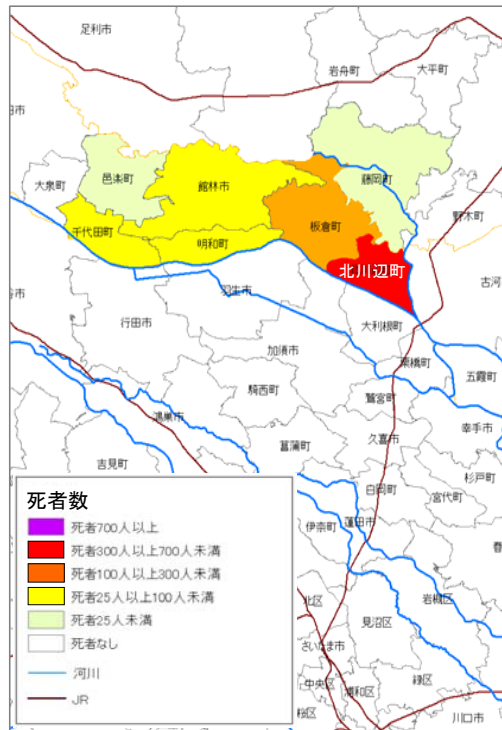


死者数 上位5市町村

北川辺町	約1,800人
板倉町	約700人
館林市	約300人
明和町	約200人
千代田町	約100人

避難率80%の場合

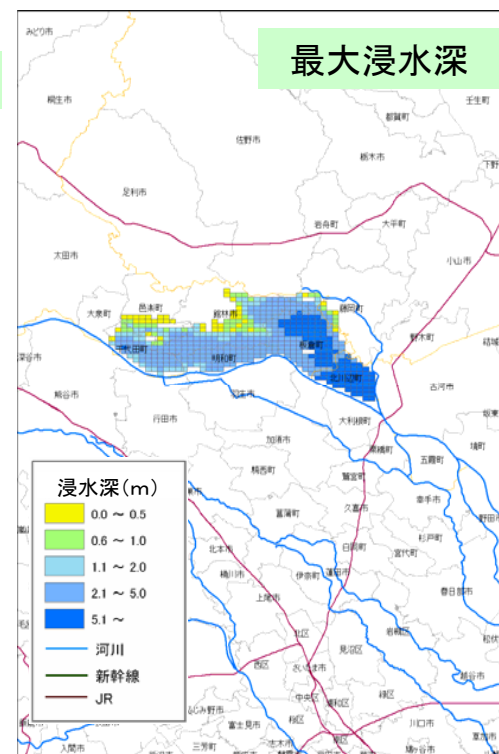
死者数: 約1,000人



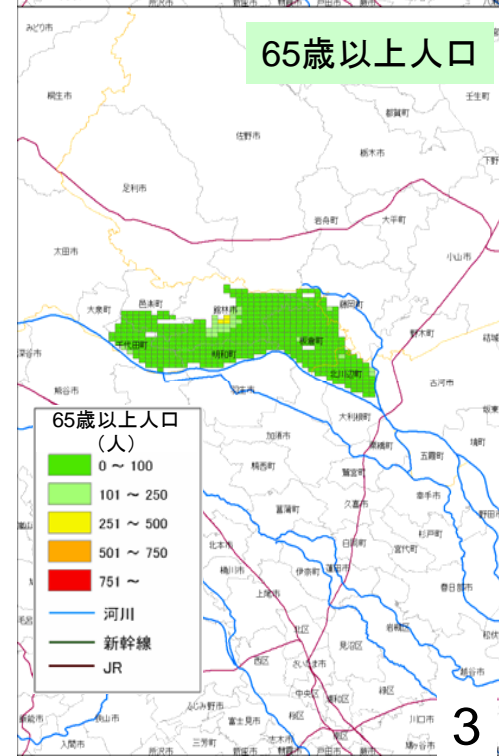
死者数 上位5市町村

北川辺町	約600人
板倉町	約200人
館林市	約100人
明和町	約60人
千代田町	約40人

最大浸水深



65歳以上人口



# 3.市区町村別死者数(ケース1:古河・坂東沿川氾濫の場合)

想定堤防決壊箇所:古河市

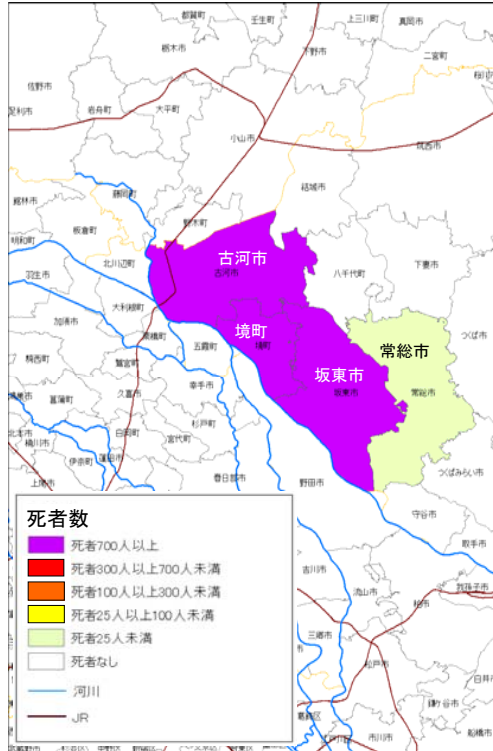
死者数

## ケース1

ポンプ運転 無 : 燃料補給 無 : 水門操作 無 : 排水ポンプ車 無 : 1/200年

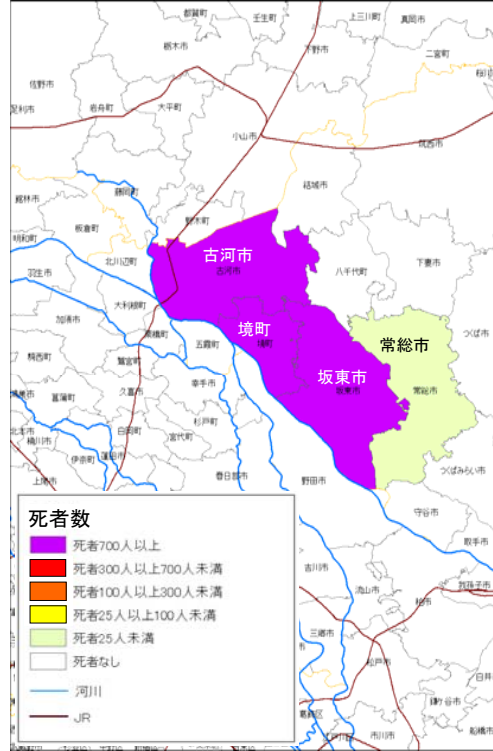
避難率0%の場合

死者数:約6,300人



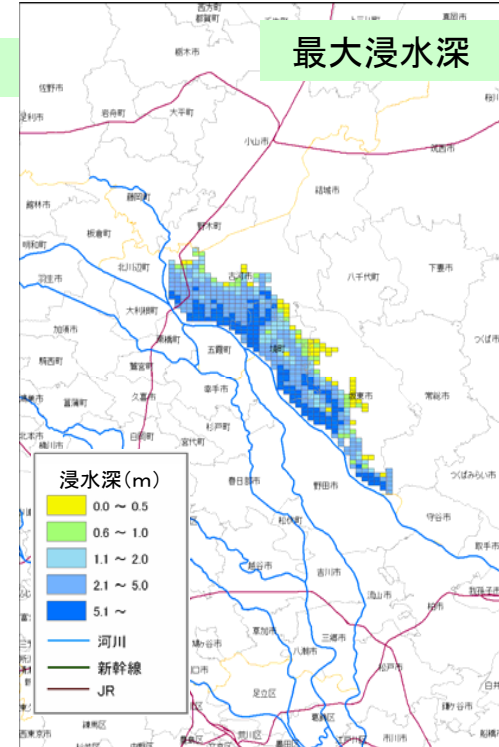
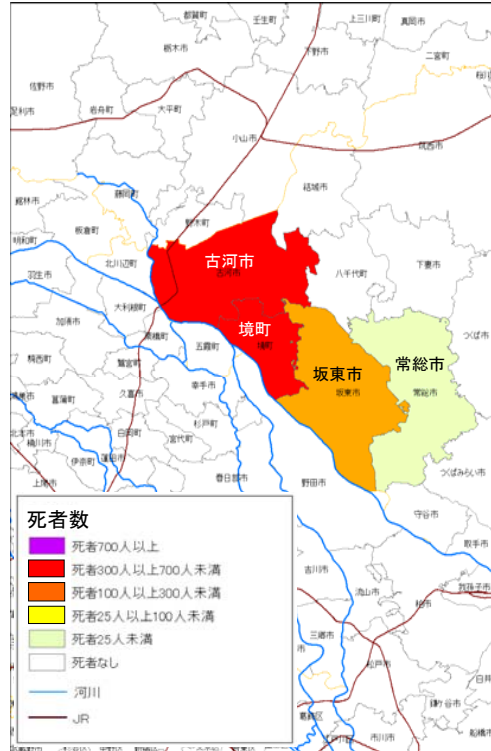
避難率40%の場合

死者数:約3,800人

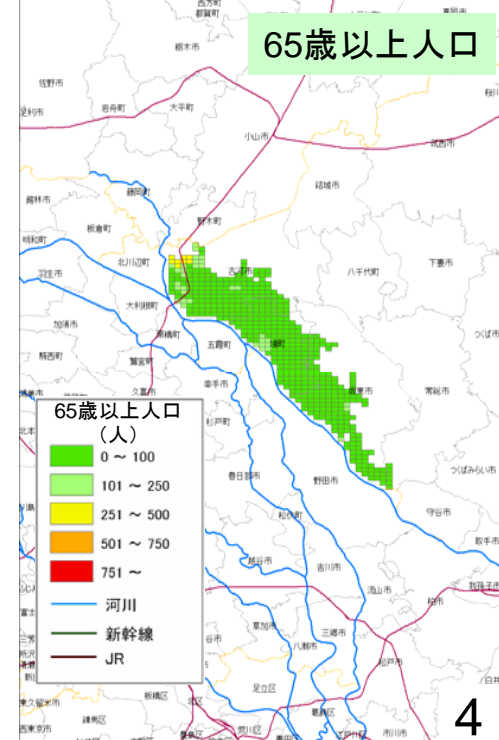


避難率80%の場合

死者数:約1,300人



最大浸水深



65歳以上人口

死者数

境町	約2,800人
古河市	約2,000人
坂東市	約1,400人
常総市	約10人

死者数

境町	約1,700人
古河市	約1,200人
坂東市	約900人
常総市	約10人

死者数

境町	約600人
古河市	約400人
坂東市	約300人
常総市	—人

# 4.市区町村別死者数(ケース8:古河・坂東沿川氾濫の場合)

想定堤防決壊箇所:古河市

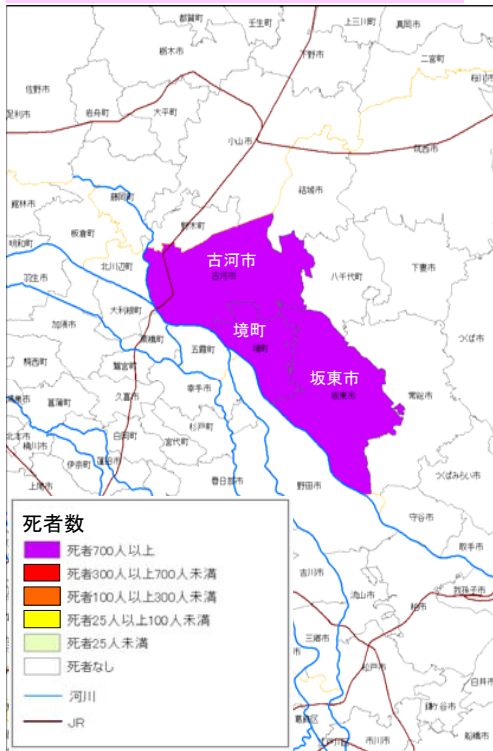
死者数

## ケース8

ポンプ運転 有 : 燃料補給 有 : 水門操作 有 : 排水ポンプ車 有 : 1/200年

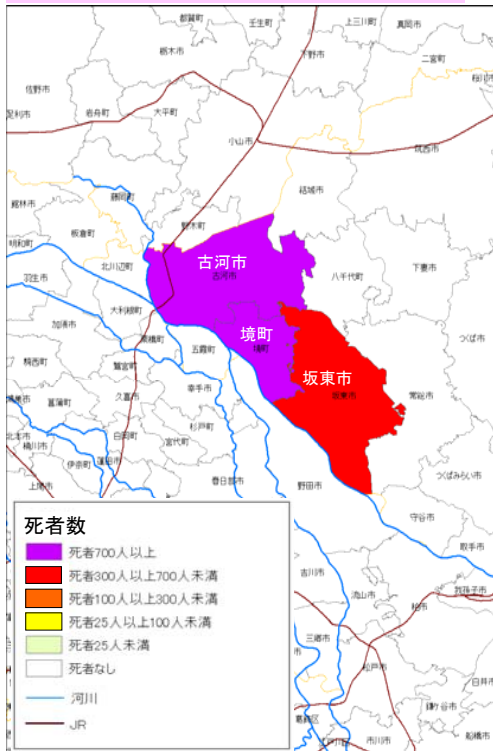
避難率0%の場合

死者数:約5,800人



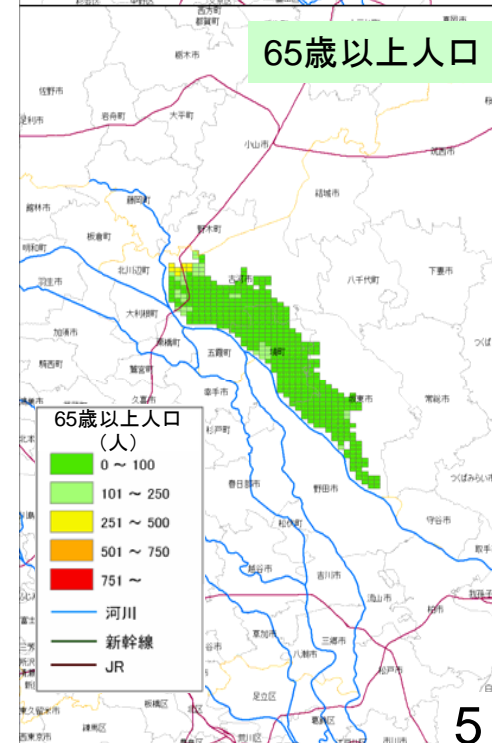
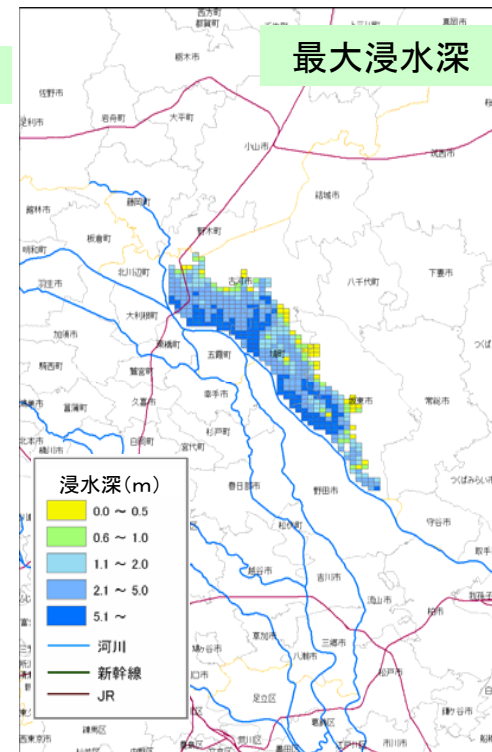
避難率40%の場合

死者数:約3,500人



避難率80%の場合

死者数:約1,200人



死者数

境町	約2,700人
古河市	約2,000人
坂東市	約1,100人

死者数

境町	約1,600人
古河市	約1,200人
坂東市	約600人

死者数

境町	約500人
古河市	約400人
坂東市	約200人

# 5.市区町村別死者数(ケース1:首都圏広域氾濫)

想定堤防決壊箇所:大利根町

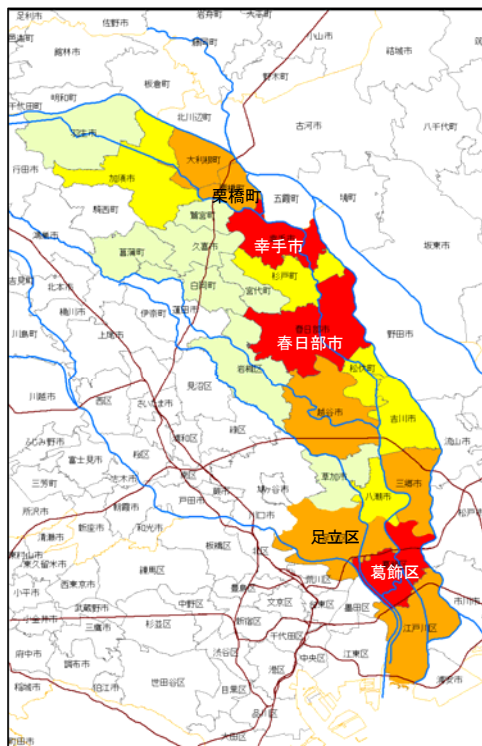
死者数

## ケース1

ポンプ運転無 :燃料補給無 :水門操作無 :排水ポンプ車無 :1/200年

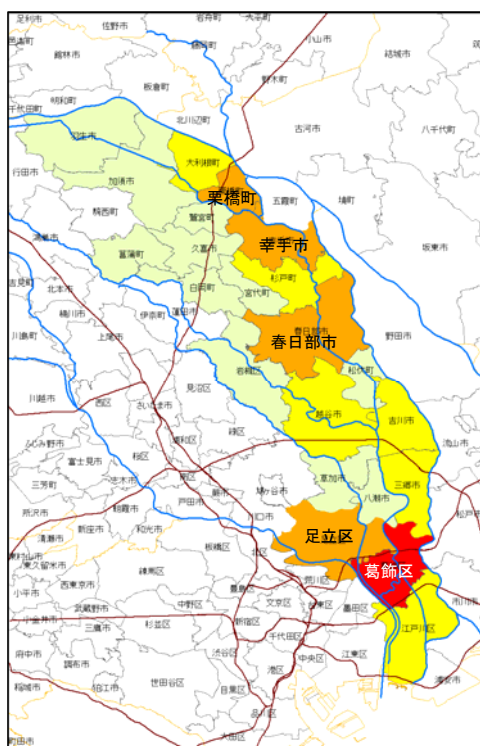
避難率0%の場合

死者数:約2,600人



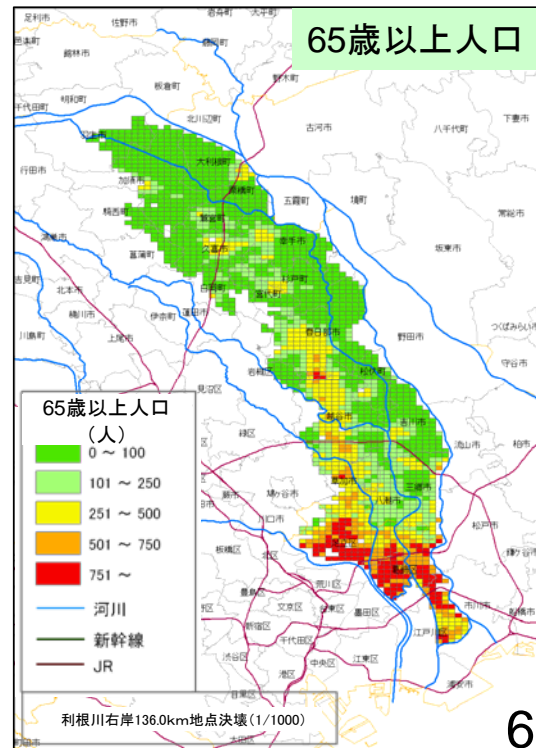
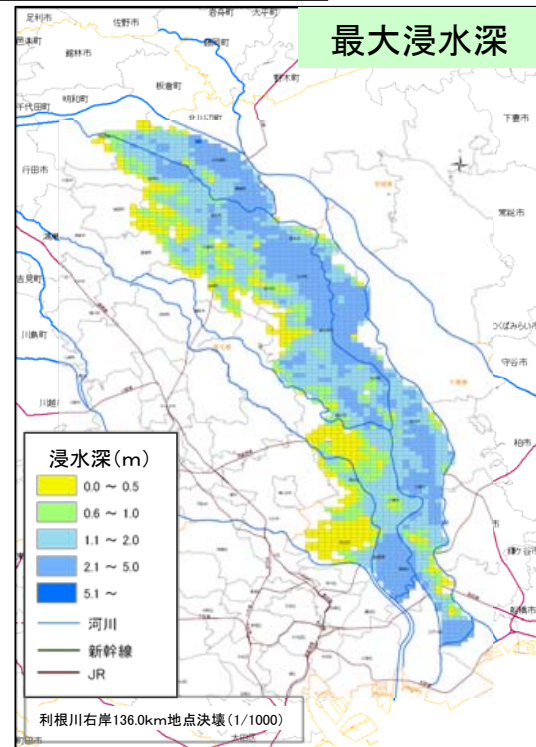
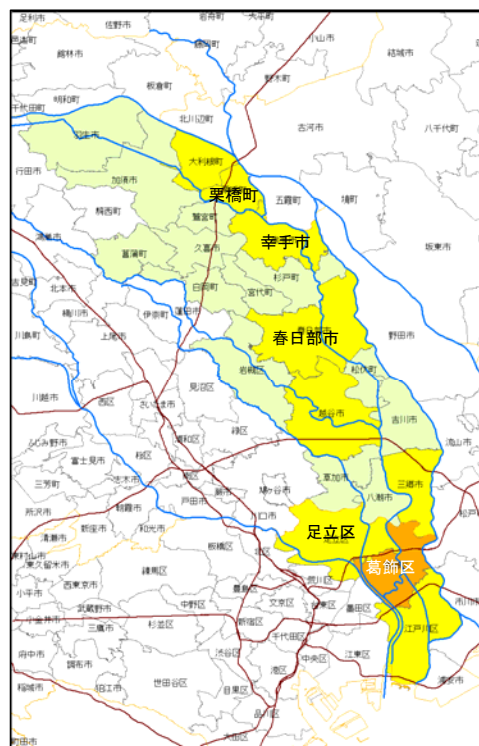
避難率40%の場合

死者数:約1,500人



避難率80%の場合

死者数:約500人



死者数 上位5市町村

葛飾区	約700人
幸手市	約300人
春日部市	約300人
足立区	約200人
栗橋町	約200人

死者数 上位5市町村

葛飾区	約400人
幸手市	約200人
春日部市	約200人
足立区	約100人
栗橋町	約100人

死者数 上位5市町村

葛飾区	約100人
幸手市	約60人
春日部市	約60人
足立区	約40人
栗橋町	約30人

注1: 今回の検討では盛土構造物や中小河川の堤防が氾濫によって決壊しない場合の計算結果を示した。

# 6.市区町村別死者数(ケース8:首都圏広域氾濫)

想定堤防決壊箇所: 大利根町

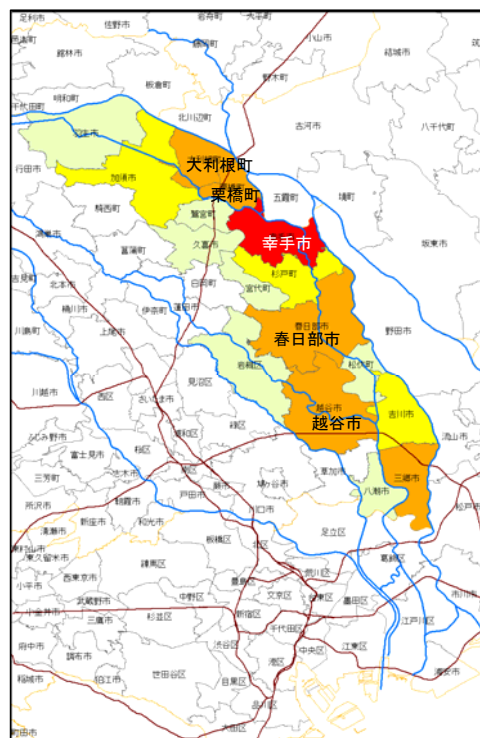
死者数

## ケース8

ポンプ運転 有: 燃料補給 有: 水門操作 有: 排水ポンプ車 有: 1/200年

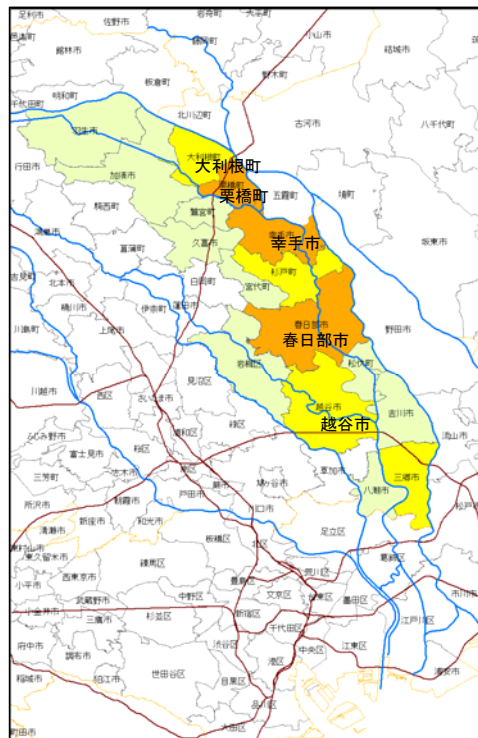
避難率0%の場合

死者数: 約1,400人



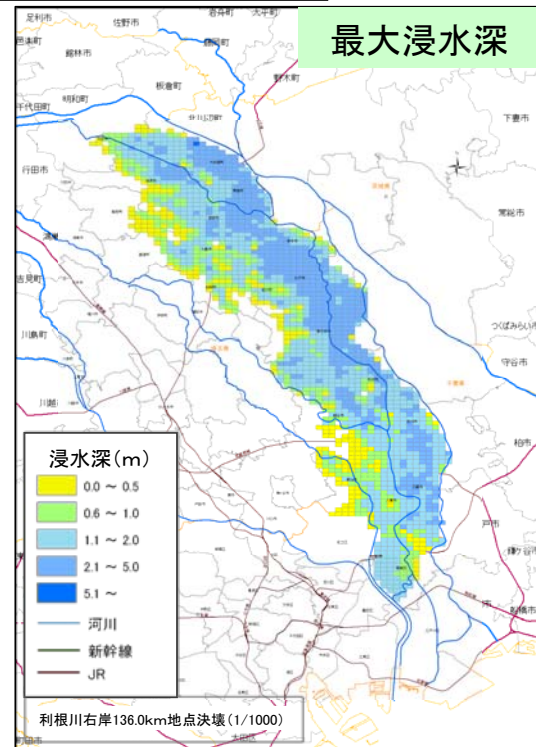
避難率40%の場合

死者数: 約800人



避難率80%の場合

死者数: 約300人



死者数 上位5市町村

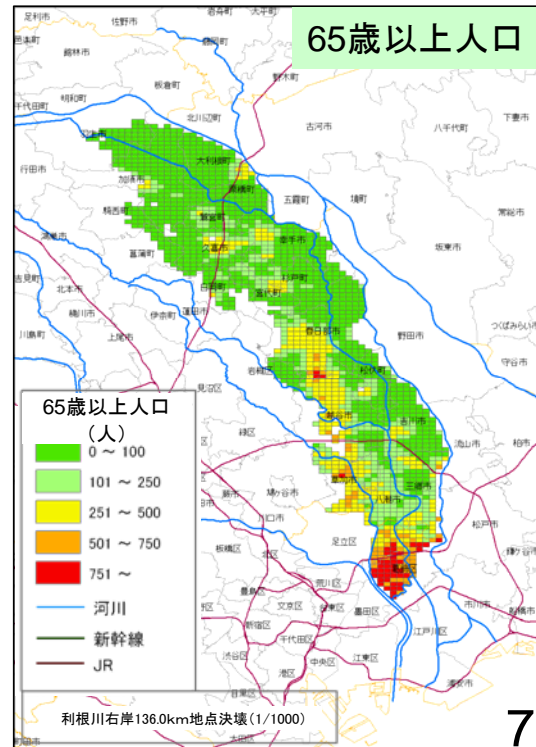
幸手市	約300人
春日部市	約200人
栗橋町	約200人
越谷市	約200人
大利根町	約100人

死者数 上位5市町村

幸手市	約200人
春日部市	約100人
栗橋町	約100人
越谷市	約100人
大利根町	約90人

死者数 上位5市町村

幸手市	約60人
春日部市	約50人
栗橋町	約30人
越谷市	約30人
大利根町	約30人

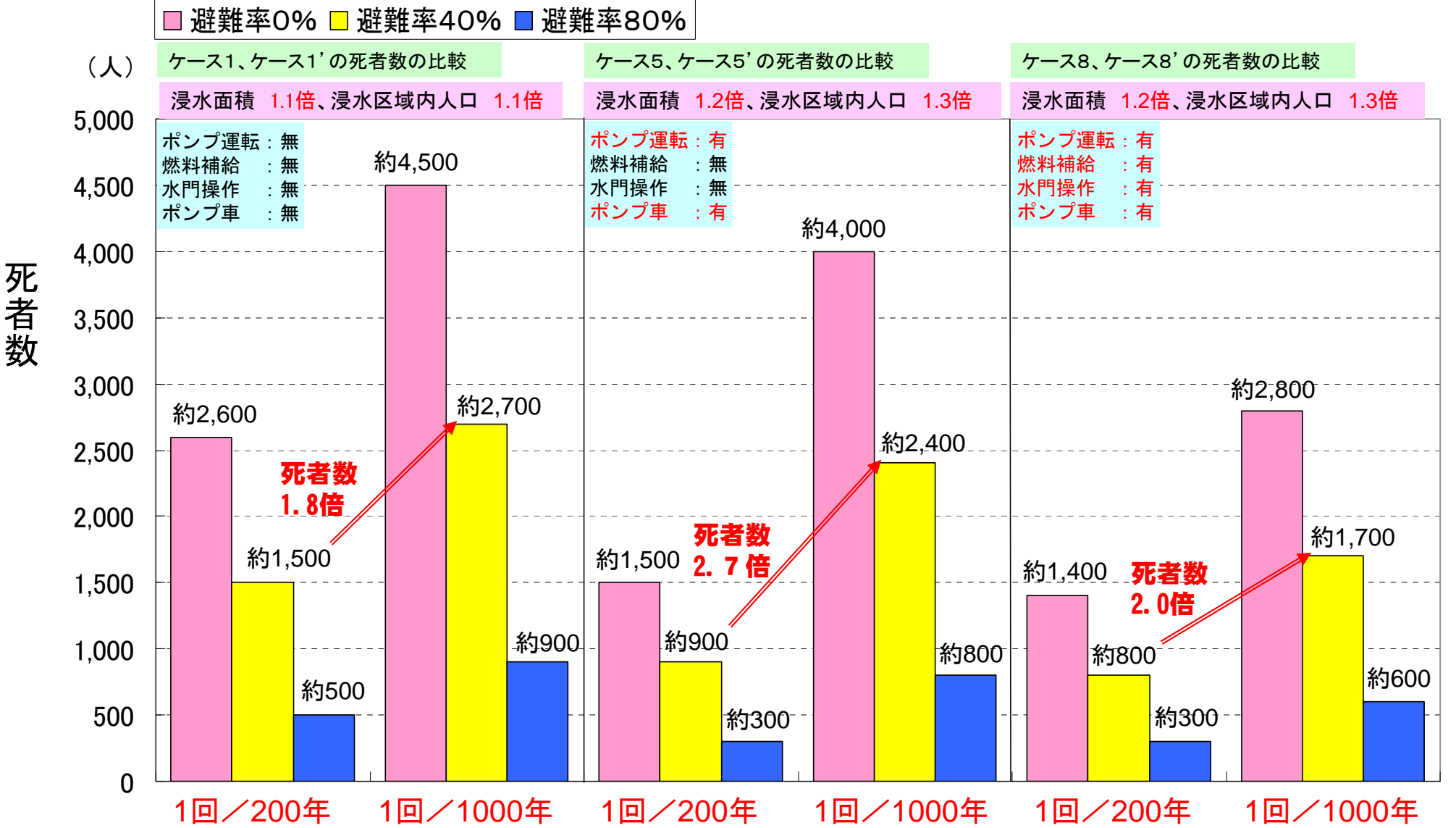


注1: 今回の検討では盛土構造物や中小河川の堤防が氾濫によって決壊しない場合の計算結果を示した。



7. 200年に1度の発生確率の洪水により堤防が決壊した場合の死者数とその洪水量の約2割増の洪水量(約1000年に1度の発生確率)により堤防が決壊した場合の死者数の比較(首都圏広域氾濫)

• 200年に1度の発生確率の洪水により堤防が決壊したケースとその洪水量の約2割増の洪水量(約1000年に1度の発生確率)により堤防が決壊したケースを比較すると、**浸水面積、浸水区域内人口は1.1倍～1.3倍**の増加であるが、**浸水深が増加することにより、死者数は1.8倍～2.7倍と大幅に増加**。



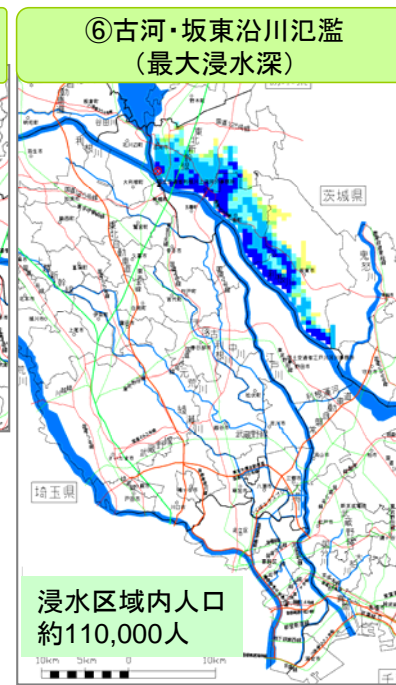
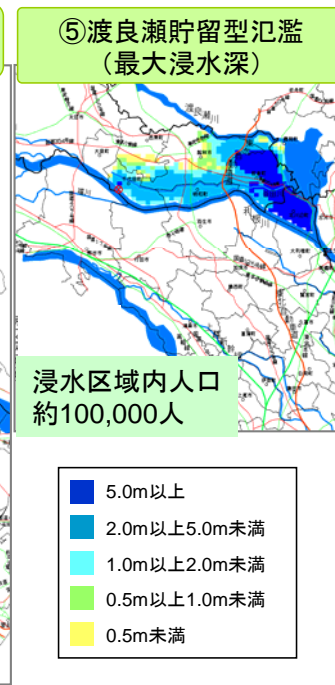
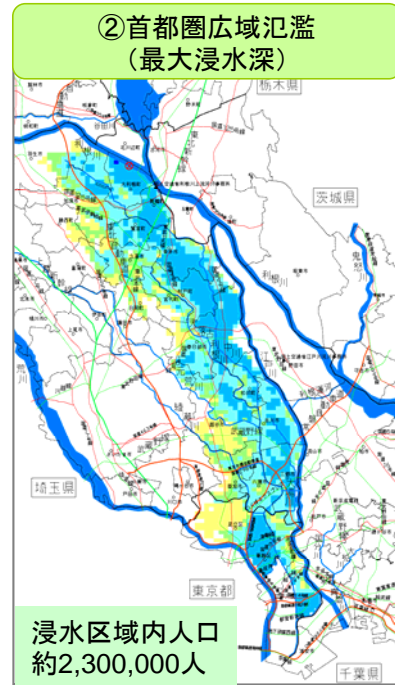
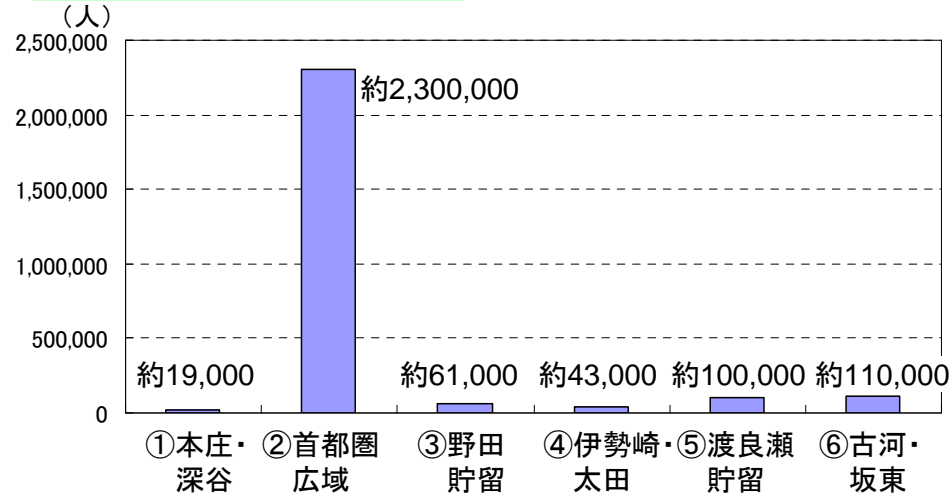
200年に1回の確率で発生する洪水 : 流域平均雨量約320mm/3日、洪水流量約22,000m<sup>3</sup>/s (群馬県伊勢崎市八斗島観測所)  
 1,000年に1回の確率で発生する洪水 : 流域平均雨量約390mm/3日、洪水流量約26,000m<sup>3</sup>/s (同上)

# 8. 各類型区分別の死者数(ケース1)

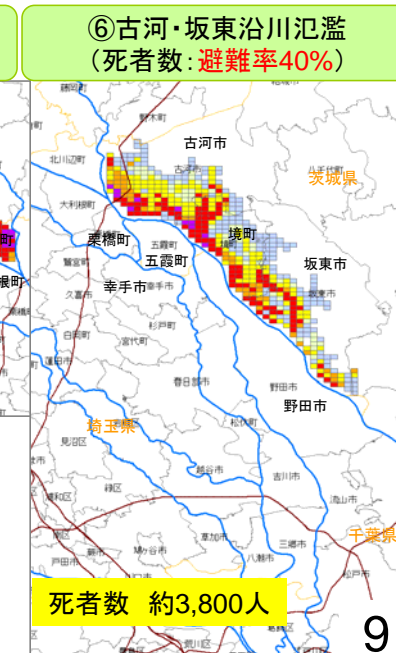
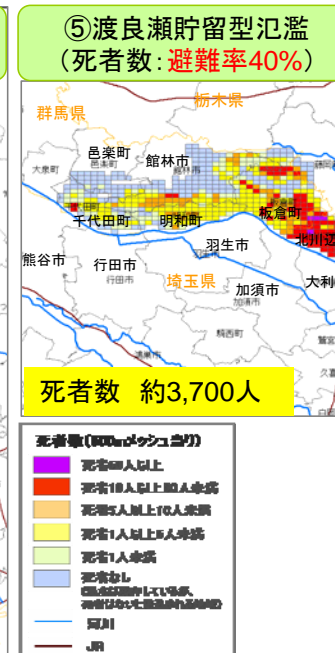
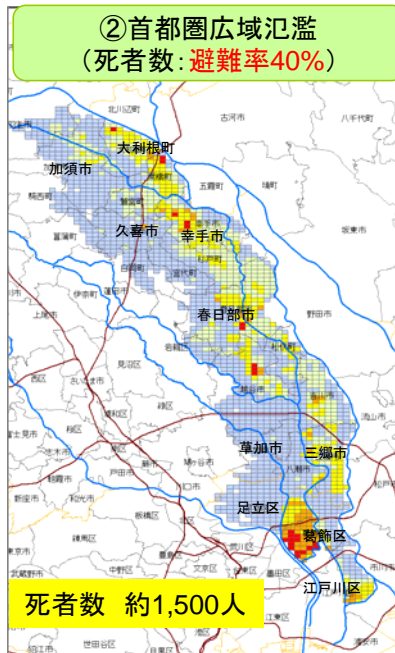
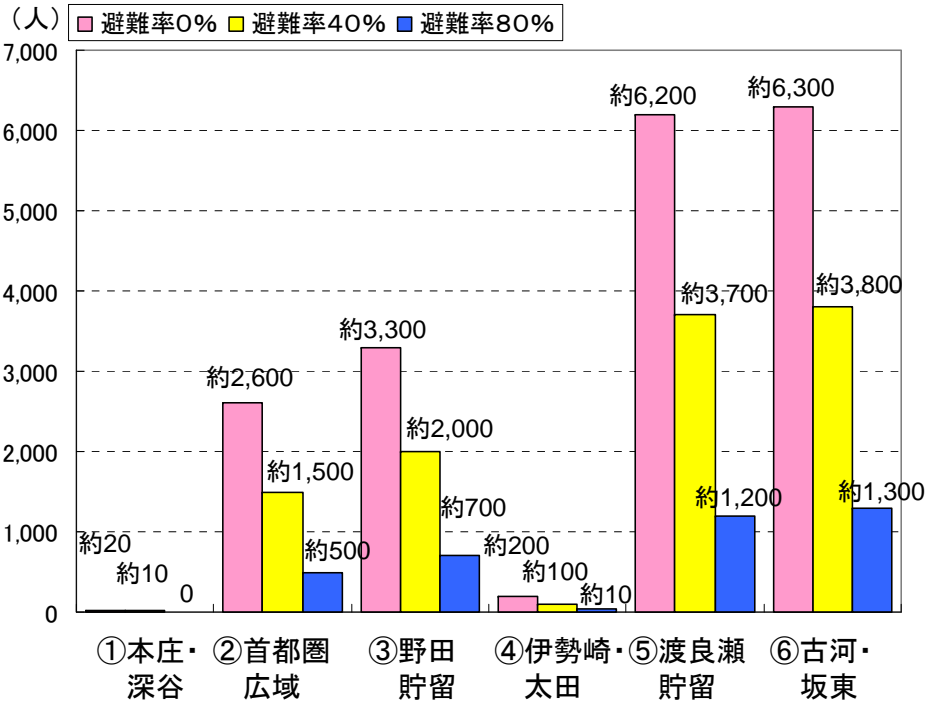
ポンプ運転:無 燃料補給:無 水門操作:無 ポンプ車:無 1/200年

・ 浸水区域内人口は、首都圏広域氾濫(右岸)が他のケースと比較し10倍以上多いが、死者数は渡良瀬貯留型氾濫(左岸)、古河・坂東沿川氾濫(左岸)の方が2倍以上多くなる。

## 浸水区域内人口



## 死者数

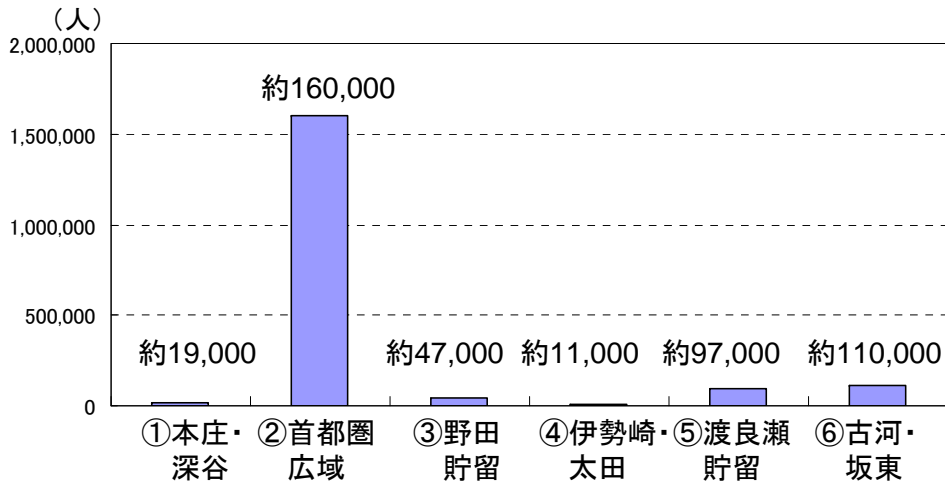


# 9. 各類型形区分別の死者数(ケース8)

ポンプ運転:有 燃料補給:有 水門操作:有 ポンプ車:有 1/200年

・ 浸水区域内人口は、首都圏広域氾濫(右岸)が他のケースと比較し10倍以上多いが、死者数は渡良瀬貯留型氾濫(左岸)、古河・坂東沿川氾濫(左岸)の方が2倍以上多くなる。

## 浸水区域内人口



## 死者数

